

令和7年度第1回 高浜市総合教育会議 議事録
開会日時 令和7年6月25日(金)午後2時30分
閉会日時 令和7年6月25日(金)午後3時38分
場 所 いきいき広場3階会議室

■ 出席者

市長	吉岡 初浩
教育委員会 教育長	岡本 竜生
教育委員会 教育長職務代理者	後藤 恵理
教育委員会 委員	加藤 洋子
教育委員会 委員	岩月 昇治
教育委員会 委員	江坂 徳峰

■ 会議構成員以外の出席者及び事務局

副市長	深谷 直弘
吉浜小学校主任	杉浦 正徳
吉浜小学校教諭	増田 彩子
高取小学校校長	中井 滋
高取小学校教諭	佐野 博之
学校経営グループリーダー	清水 健
学校経営グループ主幹	小嶋 俊明

■ 傍聴者 0名

1 市長挨拶

○吉岡市長

今年度、第1回目の総合教育会議にご参加いただきましてありがとうございます。
昨今、教育の現場でも、本当に難しい問題が多く発生をしている。いじめとか不登校の問題だと、現場だけの問題で、終わらないということが多々あるように思います。教育に限らず、行政においても、いろんな事案に関して、情報公開や監査請求が当たり前のようになってきている。それは、時代のせいかもしれませんが、これからはそういうことも含めて、物事を進める中で、決め方や納め方についても、十分に注意をしなければならぬと思います。

今日はよろしくお願いします。

2 議題

(1)令和7年度の主題研究について

○吉岡市長

(1)令和7年度の主題研究についてを議題といたします。それでは、吉浜小学校から説

明をお願いします。

○吉浜小学校

資料1により、令和7年度の主題研究について説明。

○岡岡市長

ありがとうございました。それでは、ご質問等ありましたらお願いします。

○後藤恵理委員

「アドジャン」という言葉を初めて聞いたのですが、先生方は、当然知っているような言葉だったのですか。

○吉浜小学校(増田教諭)

私は、知っていて、いろんな講演会や研修の中で紹介される活動なので、知っている先生も見えるし、若い先生とかだと初めて聞く方も見える。

○後藤恵理委員

子供たちのコミュニケーション力とかも育って、よいと思います。

○深谷副市長

大勢の前で喋るのと少しのグループの前で喋るのは、違うので、人前で喋る訓練になると思います。自分の中でも当然いろいろ考えてやっていくから、知らずのうちに身に付いて、非常によいと思います。

○岡本教育長

子供たちが、楽しいことがやれるという視点ではよいと思います。ただ、研究って言った場合、楽しいだけで終わらないのが研究という側面で、そのテーマでやっていく中で教職員がどれだけ共通理解の上に立って、お互い高められるような教職員の話し合いや対話ができることが大切になります。それがやっぱり取材研究の狙いで、片や子供たちにとってはこういう活動もよいということも十分理解をします。

○岡本教育長

資料1の2ページの一番上に「令和7年度の研究も道德の授業を進めていきます。」と記載されています。令和6年度も同様に道德をメインにおいたと思いますが、令和6年度のまでの道德をメインにおいた研究の吉浜小学校の手応えは、何だったのですか。

○吉浜小学校(増田教諭)

自分が翼小学校に勤めていた時に、一斉授業研究の道德の授業で自分がチャートを作って、個人的に手応えを感じていたので、皆さんにも、手応えを感じていただければ続けようと思っていました。去年、道德的な価値が深まるような発問を考えることの難しさや、しっかり理解させたり、深めるには、1時間の授業時間で終われないこともあって、悩んで、1年間答えが出なかったっていうのが正直なところですよ。すごい成果が出たからというよりか、もう1回丁寧に「みんなでやっていこう」、「共通理解をしてやっていこう」、さらにクラスタイムも主題からしっかり揃えてやっていこうと思って始めました。

○岡本教育長

4年度から6年度は、研究主題で、「学びを深める子の育成」となっています。今年度は、

冒頭に「仲間と話し合うことで」を付けたことは、話し合い活動をやっぱり授業の中心に持っていきたいという思いからだと思います。そうなった場合に「アドジャン」は、盛り上がって明るくてももちろんいいけど、ここでやられているのは多分会話だだと思います。

レベル的なことで言うと、やり取りで言った場合に、もうちょっと進んだところには、対話というレベルもあるし、さらにそれがもうちょっと相手が広がったりすると話し合いかなと思います。そういったところの整理は、すごく大事で、話し合いって言葉を使うなら話し合いのレベルをみんながどう考えているか、それを吉浜小学校の先生たちが、話し合いのレベルをどこに当てているかを共通理解して欲しい。話し合うとかもこの対話ってというのがもっと深まっていくと、その見えてない部分にまで思いを馳せて行くと思います。相手のことを尊重しているのが、加わってきて会話やレベルが上がって行く。そういうところを狙って欲しいし、理解してそういうところまで吉浜小学校の先生が行けたら、すごいと思います。

研究主任のやる気が、吉浜小学校の先生たちに上手に伝わってほしい。研究主任は、みんなにちゃんと熱量を伝えないといけない。独走するとこれまた駄目になります。研究主任の熱量が大事だから、全体の様子を杉浦先生がフォローしながら、振り返ってみんなと一緒に走っているかというのをちゃんと見ないといけない。引っ張る人の熱量がなかったら誰もついていけないから、そこはやっぱり大事にしないとイケない。

最後に、学習課題という言葉結構使っていますが、道徳と学習課題ってどういう関係性にあるのですか。道徳の中に正解がなくて、納得感というような説明はなるほどと思うけど、そういう中で、学習課題って何になってくるのですか。普通、学習課題は、みんなが到達する最終的なものだったりとか正解に近いものだったりします。でもどこで納得かって言った場合には、納得のレベルとか度合いとか種類とか、人それぞれで学習課題って何だったのか、道徳と学習課題の整理もつけないといけないし、道徳を語っていく時に学習課題という言葉であんまり前面に出すと、危険であります。

研究というのは、言葉をどういうふうに皆が理解しているのかっていうことが、大事だからそういう言葉の1個ずつにもこだわってほしい。吉浜小学校の研究が、先生たちのためになって、それが子供たちに帰って行ってほしいということを大いに期待をしています。

○吉岡市長

続きまして、高取小学校より説明をお願いいたします。

○高取小学校

資料2により、令和7年度の主題研究について説明。

○吉岡市長

ありがとうございました。それでは、ご質問等ありましたらお願いします。

○吉岡市長

最後のまとめに明らかに取り組みが変わったっていうのはどんなふうに変ったのですか。

○高取小学校(佐野教諭)

教員の問いに対して答えて、そこで終わることが多いと思うのですが、このような学習方法ですと、子供自身が問を見つけて終わりのない追求があり、どんどん追求していく。タブレットもあるので、こんなこと検索していいですかって聞いてくれる子がいたりとか、図書室から借りてきた本を全部読み漁り、その中から必要なことを取り出して書いたり、こちらが指示していなくても、そのような姿があるのはやはり明らかに学習への取り組みの方が変わったなと感じています。

○高取小学校校長

子供が深く学んでいるではないかというふうに判断をしているところです。

○吉岡市長

一番いいのは、一番最初に書いてあるように自分で課題に挑んでいく姿勢になるのが当然いいが、家に帰ったら、いろんな勉強して欲しいけど、大抵の場合は、早く宿題やるよとか言われている姿を見るが、他のことにも興味があると思うので、自発的に家でもやっているのか疑問があります。

○高取小学校(佐野教諭)

実践紹介させていただいたものは、去年、自分が5年生を担当していた時のものですが、週に1回自主学習ノートの宿題を出していて、多くの子が自主学習ノートに、この授業内にでてきていない自動車のこととかを、ぎっしりまとめてくる子も多くて、意欲的にやっているというのは感じ取れました。同時に社会科以外でも算数のこんな豆知識があったとあったとか、難読漢字を自分で調べたとか自主学習の取り組みも結構変わったなというところがありました。

○岡本教育長

成果として書いてあることがあまりにもバラバラであると思います。例えば、三つ目テストの点数が上がったのは、主題研究の成果として、捉える成果であるのですか。社会嫌いの児童が楽しかったって言ったのは、嬉しいことで、教師として、そういう子が生まれたことは、良かったと思いますが、この研究で狙っていた姿ですか。

○高取小学校(佐野教諭)

自分の社会科の授業に関してのことで、限定的なことでありました。

○岡本教育長

それぞれの先生の印象が、成果として書かれていて、散らかっています。主題研究というのは、やっぱり研究の方向性があるって、教職員が、それを共通に理解して、狙いのある程度定めるものです。この成果だと何でもありになっています。それぞれにいい姿かなと思いますが、主題研究との絡みというところが、評価ができない。厳しいようだけでも、研究だから、先生たちの試行錯誤はあるのは、よいと思います。ただ、あまりにもみんながバラバラに試行錯誤しているというところが気になります。焦点化やターゲット化がどうなっているかなって思います。子供たちの良い姿は、随所に見られていますが、狙いはこうではないと、そういう姿が評価しきれないことになってしまいます。

○岡本教育長

個別最適な学びと主体的対話的で深い学びがありますが、順番から言ったら、主体的対話的で深い学びの方が先に出てきて、個別最適な学びってというのはちょっと遅れて出てきた言葉であります。個別最適な学びは、あくまでも主体的対話的で深い学びに繋がる個別最適な学びでないとそれぞれのことをやっているだけになってしまいます。そういうことも悪くないけど、それはあくまでも、深い学びに至るためには、必ず対話的な部分があるはずだっていう理屈の上にこれが成り立っています。やらされる学習じゃなくて自分からやるってところが主体的になっています。だから、深い学びに至るには、自分でやることと自分の独りよがりじゃなくて、必ず人との対話が絶対にあります。その結果、深い学びに至ります。その中の一部に、個別最適な学びが上手に位置づいてくるとよいと思います。個別最適な学びだけを取り上げてくると、ちょっと危険があります。あくまでも、主体的対話的で深い学びに繋がる個別最適な学びというものをもう1回意識し直してもらえるとよいと思います。

○岡本教育長

高取小学校の先生は、指導案とか見ても、それぞれの先生が工夫しているのは、自分は、分かっています。指導案を見れば、先生がどれだけ中身を研究したかが分かります。いろいろなことにちゃんとこだわって、他の技術もしっかり書いて、頭の中を整理しながら向かっています。やっぱ先生たちの姿勢は、本当に高取小学校の先生は、素晴らしいと思います。上手にかじ取り、まとめることが、難しいと思います。主題研究というものは、そういうものだから頑張ってもらいたい。最先端のテーマだけど、果てはないし、答えもない。どこまでいっても、主体的対話的で深い学びは、答えがないものだからよくぞそこに焦点を当てたということは、本当に自分は、感心しています。真正面から向かって、でも今のままだとバラバラで終わってしまう可能性があります。もう少し、共通理解したり、方向性を決めるとよいと思います。そうするとみんなが揃ってくると思います。進め方が大変難しいが、研究主任が頑張りますと言ったから大いに期待しています。

○吉岡市長

以上で、「(1)令和7年度の主題研究について」の質疑を終結します。ありがとうございました。

(2)その他

○吉岡市長

続きまして、「(2)その他」として、「南中学校外壁等改修工事」について、事務局より説明してください。

○学校経営グループリーダー

「南中学校外壁等改修工事」について説明

○吉岡市長

何か質問がありましたらお願いします。

ないようでしたら、以上で会議を閉じさせていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。